

土・人・水

長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261(22)5542
FAX 0261(23)0766

ふれあいイベント「土・人・水」

平成12年からふれあいイベント「土・人・水」と称し、農業用水としての水の流れが、地域の人々に深くかかわっている状況を理解し、みんなで守ろうという認識をもってもらえるようにと取り組み始め、今年で18回目の開催を迎えることとなりました。

イベントは平小熊原にある越荒沢親水広場を会場に行われており、「せせらぎ水路作り」「オオヤマザクラ植樹」など景観整備や草刈り等の維持管理を協働の力で行うことにより「水」の大切さを認識していただいております。

作業終了後は、お楽しみとして魚つかみや稚魚の放流、また、最近はおまわり見かけなくなってしまう案山子「案山子コンテスト」として復活させる催しを行っています。

出展される案山子はどれも個性的で楽しい作品ばかりです。そんな作品をより多くの方に見ていただくよう大町市役所正面通路に展示をしています。当初は突然現れた案山子の意味が分からず、不思議がる皆さんも多かった

ように思われますが、次第に趣旨も伝わり、懐かしいという声がかえり、報道の取材を受けるなど、用水路を守るという啓発に一役買ってくれました。

今年もさらに多くの作品が集まり、賑やかに展示することで、農業用水がかんがい以外に地域用水として幅広く利用されていることを啓発する機会にしたいと考えております。ぜひ趣旨に賛同していただき、多くの作品を出品していただきますようお願いいたします。



※イベント参加要項及び案山子コンテスト作品応募先については3面に記載されております。

疎水のある風景写真コンテスト

日本には地球10周分に相当する3万5千本の水路が、網の目のように張り巡らされています。これらは、田畑に水を運ぶだけでなく、生活用水や人々の憩いの場としても親しまれ、私たちの生活を支え、地域社会の重要な要素になっています。

そうした水路を当地では「用水」と呼んでいます。地域によっては「疎水」(そすい)とも呼ばれています。

農林水産省では、日本の農業を支えてきた代表的な用水を選定して、用水によりもたらされる「水・土・里」を次世代に伝え維持する活動の一環として、2006年に疎水百選を選考しました。

当管内を流れる用水は残念ながら百



選には漏れてしまいましたが、全国水土里ネットのホームページ「新・田舎人フォーラム」の中の全国疎水名鑑に、越荒沢堰が紹介されています。

そうした、疎水(用水)の情景を題材にした写真コンテストが、2006年より開催されており、第16回ふれあいイベント「土・人・水」に千葉県から参加した小栗山さんが、イベントの風景をコンテストに応募されたところ、2015年には農村振興局長賞を、2016年には入選をされました。

今年も農業用水路などの農業水利施設を含む農村の景観や農業水利施設と共に生きる人々、生活の様子、疎水を活用した地域づくりなどを題材に募集されています。奮ってご応募ください。詳しくは、水土里ネットおおまちまで。

畦草刈り作業へのごお願い!

毎年、水路に流れ込んだ草が暗渠等に詰まり、住宅地に溢水するといった被害が出る季節となりました。

水路に沿った畦草等の草刈りをするに多少の草が水路に入るのにはやむを得ないことです。しかし、水詰りの原因となる点を考慮し、注意して草刈り作業を行っていただきますようお願いいたします。



社北部の開発にかけた一筋の願い ―居谷里堰―

山岳博物館への道を登っていくと等高線に沿ってゆったりと流れる二つの水路を渡ります。上が居谷里堰(いやりせぎ)、下が横堰(よこせぎ)です。どちらも松崎・館之内・木船・常光寺など社北部の古い開発に関わった用水堰ですが、横堰については既に紹介しましたので、今回は、居谷里堰について紹介します。

社北部地区の古代にさかのぼる開発は、樋沢(ひざわ)・蟹ヶ沢(がにがさわ)・荒沢・湯沢・滝ノ沢・とや沢などの沢水の利用と農具川沿いの低湿地帯から始まったと考えられています。

その後、仁科氏が館之内に居館(きょかん)を構え、松崎の古城(ふるじょう)



居谷里堰に大改修が加えられたのは、万治(まんにじ)元年(1658)でした。この年、受益者である大町・松崎・館之内・木舟・常光寺の五か村は協力して居谷里に「堤(つつみ)」を築いて「囲水(かこいみず)」「ため池」を設け、東山からの沢水は「上樋(うわひ)」「や」「底樋(そこひ)」で立

や丑館(うしだて)(薬師寺)にも館を置くようになると沢水が届かない小扇状地の末端の開発を進めるために、計画的な用水堰の開鑿(かいさく)が必要になりました。そこで考えられたのが、

上流の居谷里湿原の湧水を等高線に沿って導水し、沢水を補強することでした。江戸時代の史料によれば居谷里堰は、古くは「松崎溝(まつさきみぞ)」とよばれていました。開鑿は鎌倉時代にまでさかのぼる可能性があり、十分な機材もない時代、人力によって東山山麓の段丘上をおよそ8kmにわたって文字どおり「溝(みぞ)」を掘ることは、困難を極めたものと思えます。

居谷里の湧水から直接取水していた

体交差し、水路全体を再掘削するなど、の整備を行いました。水量については、大町村と残り四か村でほぼ等分に分け合、流域で新田開発や新取水口を設けないことなどが取り決められ、以後も五か村の組合で協力して水揚げや水路管理を行ってきました。

このように関係の深い五か村ですが、長い年月の間には、激しい水争いも起きており、大町村の新田開発を社四か村が協力してつぶさせるような事件もありました。

水争いを防ぐ方法の一つとして松崎・常光寺・木舟の三か村は、松崎村は夜間のみ灌水(かんすい)し、昼間は常光寺と木舟が交互に灌水して、この両村と松崎村は互いに相手方の水口(みなくち)を番水(ばんみず)する制度も設けられました。

その後、居谷里のため池は、明治二五年(1892)に再築造されて第一号ため池となり、明治四一年(1908)には「水利組合法」の制定により居谷里堰普通水利組合が設立され、水利調整や水路管理を行うこととなりました。

大正一二年(1922)には、大町の上水道敷設に伴って大町長と社村長の間で居谷里水源の湧水を使用する契約が結ばれ、この結果、大町分の利用水量は大幅に削減され、それまで居谷里堰からの分水である冷水堰、西浦堰、前田堰を利用していた水田は、農具川から新たに引かれた大正堰の受益に変わ

ました。

昭和一〇年(1935)には居谷里には新たに第二号ため池が整備され、さらに昭和二七年(1952)には高瀬川上流地域総合開発の補償の一環として第三号ため池が築かれました。また同年施行された「土地改良法」により普通水利組合は解散して大町土地改良区と社村土地改良区が分担して維持管理を行うことになり、翌年には、水利調整を行うために大町、社村の各代表五名からなる居谷里堰水利運営委員会が発足しましたが、これも昭和三五年(1960)には高瀬川上流水利運営委員会に合併し、今日に至っています。

大町の「水甕(みずかめ)」ともいいますが、居谷里の湧水は、量は限られていますが、今も安定した水量を私たちに供給し続けており、ここに鎮座する八坂神社の奥宮を訪ねるとき、この水に注目した先人の苦勞と恵みに感謝せずにはおれません。

(文責：荒井今朝一)



居谷里の水神、八坂神社

西小学校 5年生がらのメッセージ

毎年恒例になった大町西小学校5年生の総合学習への協力に対して、生徒たちからうれしいメッセージが届きました。

総合的な学習は、教科書等で得た知識や技能が、この学習の活動を通して生活と結びつくことを目指しています。

全体を使った体験から、風や土、人の心を感じることによって、見聞きしていたものと実際に肌で感じたものでは大きな違いがあること、そして、働いて疲れることが、実はとても心地よく楽しいことに気づくと思います。

水土里ネットおおまちでは、「米作り体験」を通して、昔の農作業や農業用水の歴史をたどり、先人の苦労のおかげで自分たちの生活があることを伝える、農業用水の大切さを理解してもらえよう、毎年市内の各小学校に対し



協力要請を投げかけて

います。

大町西小学校の5年生の皆さんと一緒に、当初の生徒も今や社会人として各方面で活躍しています。

これまで一緒に汗を流した生徒を思い出しながら、今年の5年生が体験し、楽しかったことや、ためになったことなど、感謝の気持ちを添えた直筆メッセージカードを一枚ずつ拝見しました。



田植えが終わった後に、担任の先生から「生物ってのは、みんなの足跡が聞こえるとどんどん成長するけれど、聞こえないと成長が止まっちゃうぞ!」と言われ、毎日田んぼに顔を出して、その成長ぶりを観察する約束をしていた子供たちの姿を思い出しました。

米作りは、今後も稲刈り、はぜ掛け、脱穀と続き、そのあとはお楽しみの収穫祭が待っています。

まだまだ先が長いですが、子供たちと一緒に頑張りたいと思います。

案山子コンテスト作品募集

当協議会がイベントに合わせて行っている案山子コンテストは、今年で7回目となり、毎年10体程度の応募作品の中から、優秀作品を投票で選考しています。

全国でも案山子コンテストが開催されており、奈良県明日香村では、昨年は50体もの応募があったようです。

県内でも各地でコンテストやお祭りが催され、特色ある作品が飾られており、つい微笑んでしまうような温かい気持ちになります。

しかし、最近の田んぼでは案山子が活躍する風景があまり見られず、反射テープや、CD、大きな目玉などで鳥獣を脅す光景を見かけます。

ユニークで効果のある作品を考案することは、構想に頭を悩まし苦労もあることですが、その反面とても楽しいことでもあります。

当協議会の案山子コンテストは特段目新しい企画ではありませんが、今年も、それぞれ工夫を凝らした作品が展示され、市役所を訪問された方々にも楽しんでいただける企画にしたいと思いますので、奮ってご応募ください。

昔ながらの案山子や時代を象徴した案山子など題材は自由です。

詳しくは水土里ネットおおまち
(大町市土地改良区)

までお問合せ下さい。

第18回ふれあいイベント

「土・人・水」 参加者募集

ふれあいイベント「土・人・水」は18回目の開催となります。昨年に続き越後荒沢親水広場周辺の景観整備をメインに魚のつかみ取り、稚魚の放流を行います。

★主催 水土里ネットおおまち

★日時 8月27日(日)
午前7時半開会
正午終了予定

★会場 平小熊原
越荒沢親水広場

★連絡先 水土里ネットおおまち

(大町市土地改良区)

☎22-5542



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2016

大町西小学校5年生が米づくり体験を通して感じた思いを、版画にして表現してくれました。寄せられた作品は水土里ネットおおまち地域用水対策協議会において審査を行い、協議会の席上で牛越会長より表彰状と記念品が贈呈されました。受賞作品は次のとおりです。

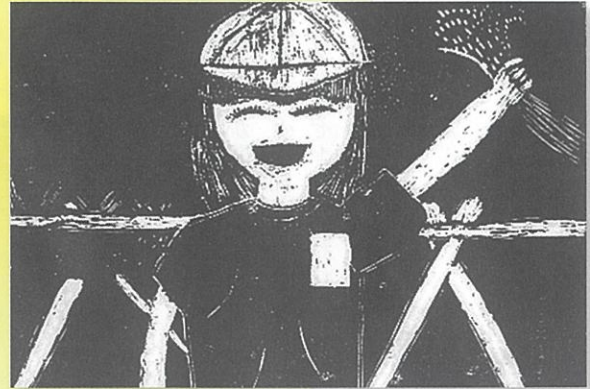
会長賞



「田植えまたやりたいな」

塩入 杏さん

理事長賞



「やった～！稲刈り」

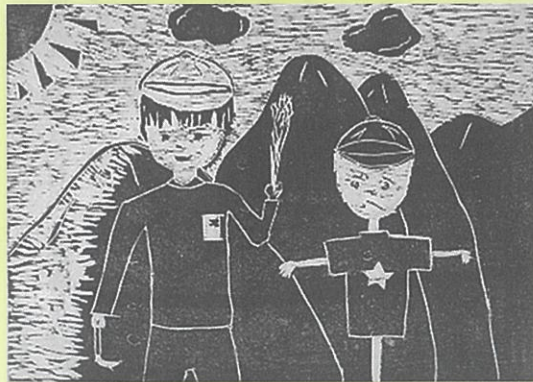
御筆陽南さん

努力賞



「がんばった米作り」

平林 巧さん



「かかすと稲刈り」

白本安奈さん



「難しい集かく」

松下拳也さん

ホームページも
開設しています。
**水土里ネット
おおまち**
で検索してみてください。
ください。

<http://www.midorinet-omachi.jp>

土地改良施設の維持管理、
地域用水の適正配分調整を主
に担当します。
一日も早く組合員の要望に
対して迅速に対応できるよう
努力してまいります。

薄井



職員体制変更のお知らせ
平成二十九年六月一日より
技術職員として新たに「薄井
泰介」を採用いたしました。